

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の適正な飼養・保管を行っております。

<学内規程・関連規程等>

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2014年度

<動物実験の実施状況>

・申請課題数：11件

「高周波が皮膚に及ぼす影響に関する研究」

「ホヤ組織に対するモノクローナル抗体の作製」

「ホヤ卵内局在タンパク質に関する研究」

「脳神経系・筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「生分解性インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植技術の開発に関する研究」

「クルクミンナノ組織体の抗癌活性評価に関する研究」

「摂餌制限動物における骨髄細胞反応の解析」

「オルガネラ形成と機能に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「分裂酵母ミトコンドリア分解に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「分析酵母ミトコンドリア分解に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「物理学的環境に対する応答シグナルとがんの病態制御メカニズム」

<実験動物の飼養保管の状況>

・使用（飼養）頭数： マウス： 45 (1)

ウサギ： 2 (0)

イヌ： 4 (0)

ラット： 6 (0)

<施設等の維持管理の状況>

・飼養施設：1箇所（F-1号館305動物実験室2）

・実験室：2箇所（F-1号館312、314実験室）

<動物実験等に関する安全管理の状況>

- ・ 遺伝子組換え、病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施していません。
- ・ 今年度、動物の逸走等の事故は報告されていません。

<教育訓練の実施状況>

- ・ 実施日時：2014年3月31日および4月23日
- ・ 出席者：21名（実験責任者となる可能性のある教員および、今年度動物実験に関わる学生全員が参加）
- ・ 甲南大学動物実験取扱規程、動物実験を適正に行うために必要な諸注意、動物実験の申請および実験計画書、標準操作手順（SOP）等について説明と質疑応答を行いました。今年度の申請課題の多くは抗体作製の外部委託であり、実験責任者も少ない。一方で、FIRSTでは、動物実験が徐々に増えてきている。従事者に対し、3Rの原則から、苦痛の分類などを詳細に説明した。さらに、マウスの管理に関して、実情に沿った説明と注意を行った。欠席した少数の従事者への教育訓練は、安全主任者が別途行うこととなった。